

1. 本園の教育目標

わたしは わたし でも みんなのなかの わたし

- ・友達と仲良く、思いやることができる豊かな人間性を育てる。
- ・活動することの楽しさを体感し、学びのもととなる力を育てる。
- ・健康な体力、健全な生活を営むための望ましい生活習慣をつくる。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

◎4 本柱（もじ・体操・音楽・絵画）を中心とし、主体的な活動を重視し園児一人一人を大切にした質の高い教育・保育の実践を目指す。

○園児の体力向上を目指して運動遊びの機会や場を設定し、体を動かして遊ぶことが大好きな子どもを育成する。

3. 評価項目の評価及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程を見直し改善を図る	B	・わくわくタイム、サーキットなどの運動遊びで体を動かして遊ぶ楽しさを感じるとともに、体操専科からも能力向上を認められた。クラスミーティングの時間を設定し、話し合いの時間を設けることは、有意義であった。 ●課題 ・PDCA サイクルを意識した実践ができるよう、研修を進めていく。
2	運動遊びについての研修をする	B	・竹倉先生の研修でパート職員を含む全員がサーキット遊びを中心に共通理解できた。保護者の協力を得て、全員一斉に研修会や園内研修に参加する機会が増えたことは、有意義であった。 ・学んだことをパート職員とも共有し子どもたちの成長を振り返りながら体力向上につなげていくこともできた。 ●課題 ・運動遊びの体系化を図るところまでいかなかった。
3	定期的に振り返り、改善を図る	A	・クラスミーティングで週ごとに運動遊びについて振り返り、シートに記入することで、クラス担任間で相談しながら取り組みについて反省し、次週の活動に生かすことができた。 ●課題 ・職員会議において、運動遊びについての話し合いが十分ではなかった。クラスの現状や関心ある遊びの共有が難しい。今後は、子ども主体の遊びに発展できるように、話し合う機会をもつようにしたい。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	幼稚園由来の認定こども園として、4本柱を中心に据えつつ、3年間、特に園児の体力向上を目指し、運動遊びを重視してきたことにより、園児が運動遊びを楽しみながら能力を高めることができた。今後は、実践の後の考察を次につなげ、遊びを深化拡充することを目指したい。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	研修内容の重点化	運動遊びについて成果が見られたので、次年度以降は、子どもが主体的な遊びを展開し深化拡充できるようにするために研修を行っていきたい。見取り、記録の取り方・考察の仕方、環境構成、幼保小の連携などが重点内容として考えられるので、検討して進めたい。
2	情報共有	クラスミーティングの時間を設定したことにより、クラス内の意見交換が円滑になり共通理解が図られた。しかし、園全体や他クラスの様子について情報を共有し、意見交換することができなかった。できる限り考えを交換できる機会をもつように工夫したい。

6. その他

- ・会議・研修などの対応で、保護者をお願いすることが多々あった。その度に理解協力を得ることができ保護者の園に対する理解、協力体制、支援がとてもありがたかった。
- ・他園に類を見ないほど職員数が多いことが当園の特徴である。一人一人の子どもを複数の目で見ることができ利点がある。反面、全員での情報共有・意見交換が困難である。次年度も、可能な限り機会を作りたい。また、少子化により園児数が減りつつある。（来年度は20人減）職員の処遇改善が厳しくなることが危惧される。

7. 学校評価委員会での評価

- ・「こどもがまんなか」の精神で園全体がよい方向に向かって努力をしていることがわかる。園児のために円滑な園運営がなされ妥当である。